

今月は新聞のコラム欄に載っていた文章を引用させていただきます。

社会学者 橋爪 大三郎氏が「星を投げる人」の話を書いておられます。

牧師さんが、{朝、いつものように海岸を散歩していると、一人の少年が何やら、海に向かって投げている。「何してるんだい?」「ヒトデを投げているのさ」。見ると、見渡す限り無数のヒトデが打ち上げられている。やがて死んでしまうであろう。「こんなにたくさんいるのに、何の足しにもならないよ」。少年は、ヒトデをもう一つ拾い上げた。「でもこのヒトデには、大きな違いだと思うよ」そう言って、そのヒトデを海に投げたのである。}

ヒトデはこんなにたくさんで、全部は助けられない。徒労に思える。でも少年は言う、「この」ヒトデ確実に助かるよ。そしてひとつずつヒトデを投げ続ける。それならできるから。

映画「ハクソー・リッジ」で負傷兵を助け続けたデズモンドのように。そして、ささやかな「違い」のために、悪戦苦闘している誰でものように。とありました。

次は、中学校の花壇を年中きれいにしている仲間 {花ボラ} のお一人 (T) さんの話を書きます

Tさんは、毎週土曜日、花ボラの日に学校まで片道4000歩ぐらい歩いて来られます。その行き帰りの道中で吸殻をナイロン袋に入れて持ち帰られる。その上に持ち帰った吸殻の数量×1円。1000個拾えば1000円を貯金して、ある程度の金額になると赤十字に寄付をなさっているとか。

この様な、いい話は少しでも多くの人に話したくなるものです。

全く同じことはできないにしても、この話を聞いた人はポイ捨てをしなくなることを請け合いです。

次は私自身も携わっている話ですが、毎年秋に、学校周辺の欒(けやき)の落ち葉を集めて腐葉土を作っています。その箱が老朽化してきたので、新しくブロックで作ることになりました。

その軍資金を私たちのクラブで出させていただきました。

その趣旨は、以下に書かせていただくような内容のことを、生徒たちに学んでいただくことを、目的としています。

昔からよく使われる「もったいない」という言葉。

例えば、古い話になりますが、江戸時代には木綿から浴衣を作り古くなると、肌着にし、さらに下駄の鼻緒に再利用、最後は土に戻して肥料にする。

同じように、中学校周辺にある街路樹(けやき)の落ち葉を生徒たちが、清掃も兼ねて学校に持ち帰り、腐葉土を作る。できた腐葉土を花壇に入れて、きれいな花作りに利用

する。

落ち葉をゴミとして捨てて焼却すると、二酸化炭素が発生して大気を汚染します。

この様な事から生徒たち自身が「環境問題」にも取り組んでいる。という自覚を持ってもらうこと。

そして、2年前にフランスの留学生を我が家で預かっていた時に、フランスのパリでテロがあり、沢山の方が被害を受けられたことが、大きく報道され留学生もお姉さんが、パリに住んでいるので大変心配をし、ショックを受けていました。

パリでテロがあったことを学校で話をしても、2,3人の生徒しか知らなかった、と大変失望していました。

また、何カ国かの留学生が集まって話をするとき、どの国の子供たちも「自国のこと」を熱く語るのに対して、日本の留学生はこのような時、話の輪に入っていく留学生は、大変少ないようです。

上記のように、最近の中・高校生は新聞。ラジオ。テレビ。などのニュースへの関心が大変薄いと聞いております。

この5月、アメリカのトランプ大統領が「パリ協定」を離脱したことが、各方面で大きく報じられておりました。

「環境問題」を見たり聞いたりしただけでも、そちらに意識を持ってくれる生徒が、少しでも増える事も願っております。

このようなことの少しずつの積み上げかなと思っております。

毎週、土曜日朝8時半から10時くらいの1時間半ぐらい、正月の3が日を除き学校へ花壇の手入れに言っております。今日はその作業をしながら考えていたこととお話します。

この学校でボランティアをするまでは、本で読むだけで実際に作業をしたことが無かったのです。

1. 摘み取り作業をして雑草や花柄、切り戻しをしたゴミを箱の中に捨てる時、ただポイポイ捨てるだけでは、箱の真ん中に溜まって隅っこが開いてしまいます。最初から隅の方にごみを捨てるように心がけると万遍なく綺麗に箱の中に溜まっていきます。生徒たちを指導していただくときも、真ん中の子たちだけに、目を向けるのではなく、目立たない生徒たちに目を向けていると自然と真ん中の子たちのことも分かるようになります。
2. どの花苗も、自分が一番日光に当たりたくて、競って枝を伸ばして花を咲かせます。人間もスポーツや勉強、囲碁、将棋、などいい競争相手がいると、どんどん上達するし腕を上げます
3. 普通、1.5mぐらいにしか伸びないカボックといわれる観葉植物もビルの谷間の薄暗い所に植えておくと、日光を求めて5mぐらいに伸びるそうです。相撲取りの白

鵬を思い出させます。 最多勝利を成し遂げた、記者会見でこの日の勝ち相撲でなく、前々日の負け相撲に触れ、ポツリとつぶやいた言葉が「相撲は奥が深い」。

4. 花の苗は、4月頃に植えた時と、梅雨に入る前に切り戻しをします。 その目的は、日光や風が、下の方までよく通るようになるためと枝の分岐をよくするため。下から2節か3節目の次の芽がよく出てきそうなところで切り戻しをします。このようにすると4月頃は買った時の苗の3倍ぐらいになります。また梅雨時の切り戻しは、群れることもなく夏を済んだ頃に、より一層大きな苗に育ち、沢山の花を咲かせます。いままでに、私の店で大変よくできて、店長として切り盛りしていた人が、辞めるときに「店がつぶれるのでは？」と案じてくれていたような話を聞くのですが、花の苗と一緒に少しの間我慢をしていると、次の若い芽がすくすくと育つものです。
5. 今花壇では、赤いサルビヤを使ってローマ字で SBTANI と書いて縁取りにはペチュニアの苗を植えています。グラウンド側の花壇は虹を形どってサルビヤ、ペチュニア、マリーゴールドを植えています。校門のところは半日陰に強いインパチェンスを植えています。 この図案は生徒たちが考えその中から選抜されます。
6. これらの苗以外の植物は、雑草という名のもとに全部抜き捨てられます。昭和天皇でしたか、「雑草にも名前はある」とおっしゃったとか。真ん中にある人にだけでなく、すみずみ人まで万遍なく光が差し込む世の中になるといいのですが。
7. 最後に水やりですが、花壇にホースで十二分にやったつもりでいるのですが、土を掘ってみると1cmぐらいしか湿っていません。このままを続けると根は浅いところにしか生えずに、ひ弱な苗に育つし、枯れやすい。反対にしっかりと水をやると、奥深くまで根を張り、丈夫なよく花の咲く苗に育ちます。人に物事を教えたり、頼みごとをしたとき、思わぬ結果になる時があります。
8. 何事も植物に学びたいです
9. と、この様な事を考えながら、かんかん照りの夏の太陽を浴びながら作業をしていると、1時間半ぐらいで、すぐ汗びっしょりでもあまり暑さは感じません。作業後に冷えたビールを飲んだらさぞ美味しいだろうに！！

2017年7月22日

西井 忠義